ロ 活 餌

活餌はカタクチイワシで小型まき網で周年操業が行なわれている。

ハ 漁 場

漁場は、殆んどが同島周辺と八代湾内で行なわれ、遠いところでも港から30分位を要し、また漁場の水深が30～40m位で、底質は、ヌマ、泥、砂まじりで漁獲最盛期は7月～8月頃のようである。

ニ 蓄養施設

(イ) 東町、まき網業者は個人ごとに蓄養生質を所有し、かつお釣漁船に活餌を供給すべく体制がととのっている。

(ロ) 販売時に使用する容器は、15ℓ入バケツの水抜き生身は8～9Kg入で3千円～3千5百円で販売されている。

(ハ) 生簀は小割のナイロン網地で作られており、（9×25）、大きさは、15尺四方型と12尺の6角型、25尺の8角型等が最も多く普及している。生簀の深さは、四方角が15尺で、6角型が15～25尺、8角型は30尺で各生簀には、角の方に3キログラム程度のセメント作の角型オモリを取付、また網底の中央には、斃死魚が蓄積せぬように生簀の大小により、直経10～15cm、長さ2尺～3尺の袋状にそで網を作り工夫されている。

(ニ) 蓄養量は、竹籠が19㎥で大バケツの25～30杯、網生簀で8角型が250～300杯程度の活餌の収容が出来る。

(ホ) 竹籠の単価は、1籠、3万8千円、網生簀8角型で40万円（網28万～30万、鉄枠12万～13万円）で4方角及び角型は8角型の⅓の値段のようであつた。

ホ 歩留り

ヘイ死の主要な原因は、活餌採捕網から運搬用である竹籠に移す時と、竹籠から蓄養網生簀に入れる時に起りやすく、きるだけ網ずれなど、魚体に損傷を与えないように注意すること。また、採捕する漁撈過程で慎重に取扱いすることがヘイ死を少なくする方法でもある。この様に蓄養されたイワシは6日～10日間も馴致すると、ヘイ死はほとんどなく、生簀にもなれてきて、その時から始めて適量に餌料を与える。夏期は、10日頃から、冬は（1月～4月頃）16日頃から適量に毎日投餌する。飼料は、㈱の配合飼料イワシ用20Kg袋詰を使用している。値段は、卸売りで2,600円、小売で3,000円のようである。また飼料にならしたイワシは活力もよく、カツオ釣餌料としては最適のようである。

尚、遠洋向けの大型漁船の場合には、長時間の航海であるので蓄養中に出来るだけ投餌する必要がある。歩留りの一番よい月は、1～4月が90％で、5月～6月が70％、7月～11月